

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 20 年 2 月 14 日 (2008.2.14)

【公表番号】特表 2007-515547 (P2007-515547A)

【公表日】平成 19 年 6 月 14 日 (2007.6.14)

【年通号数】公開・登録公報 2007-022

【出願番号】特願 2006-547264 (P2006-547264)

【国際特許分類】

C 0 8 F 4/54 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

C 0 8 F 2/44 (2006.01)

C 0 8 F 220/10 (2006.01)

C 0 9 J 4/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/04 (2006.01)

C 0 9 D 4/00 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

C 0 9 D 5/00 (2006.01)

C 0 9 J 5/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 4/54

B 3 2 B 27/00 D

C 0 8 F 2/44 C

C 0 8 F 220/10

C 0 9 J 4/00

C 0 9 J 11/04

C 0 9 D 4/00

C 0 9 D 7/12

C 0 9 D 5/00 D

C 0 9 J 5/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 12 月 20 日 (2007.12.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一の部分の、フリーラジカル発生種を形成することができる有機ホウ素化合物並びに第二の部分の、1 種又はそれ以上のフリーラジカル重合が可能な化合物並びに a) 重合性組成物の 0.01 重量%より多い量で存在する、少なくとも 1 種のキノン構造を含有する化合物又は b) 二部分型重合性組成物の 1 重量%より多く 4 重量%までの量で存在する、少なくとも 1 種の、少なくとも 1 個の芳香族環及び 1 個又はそれ以上の、ヒドロキシル、エーテル及び両方から選択された、芳香族環上の置換基を含有する化合物及び二部分型重合性組成物の重量基準で 0.5 ~ 8 重量%の量で存在する、過酸化物部分を有する化合物を含む硬化促進剤を含んでなる二部分型重合性組成物。

【請求項 2】

第二の部分に、第一及び第二の部分を接触させた際に、有機ホウ素化合物を脱錯化させ

ることができる脱錯化剤を更に含む請求項 1 に記載の二部分型組成物。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の重合性組成物の成分を、フリーラジカル重合が可能な 1 種又はそれ以上のモノマーが重合されるような条件下で接触させることを含んでなる方法。

【請求項 4】

更に、前記組成物を、高温において、有機ホウ素アミン錯体が解離するような条件下で加熱する工程を含む、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

2 個又はそれ以上の基体を一緒に接着させる方法であって、

請求項 1 又は 2 に記載の組成物の成分を、重合が開始するような条件下で、一緒に接触させる工程、

接着組成物を 2 個又はそれ以上の基体と接触させる工程、

2 個又はそれ以上の基体を、接着組成物が 2 個又はそれ以上の基体（これらは、互いに接触状態にある）の間に位置するように配置する工程及び

接着剤を硬化させ、そして 2 個又はそれ以上の基体を一緒に接着させる工程を含んでなる方法。

【請求項 6】

請求項 1 又は 2 に記載の組成物を含んでなる被覆組成物。

【請求項 7】

基体の間に配置され、そしてそれぞれの基体に接着された、請求項 1 又は 2 に記載の組成物を有する少なくとも 2 個の基体を含んでなる積層体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0095

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0095】

実施例は、酸化されたビス（水素化タロウアルキル）アミンが、他の種類の安定剤の安定性を増強することを示す。この状況は、ブレンド又は単独で使用しても真実である。

以下に本発明の実施態様を記載する。

態様 1．第一の部分の、フリーラジカル発生種を形成することができる有機ホウ素化合物並びに第二の部分の、1 種又はそれ以上のフリーラジカル重合が可能な化合物並びに a) 少なくとも 1 種のキノン構造を含有する化合物又は b) 少なくとも 1 種の、少なくとも 1 個の芳香族環及び 1 個又はそれ以上の、ヒドロキシル、エーテル及び両方から選択された、芳香族環上の置換基を含有する化合物及び過酸化物部分を有する化合物を含む硬化促進剤を含んでなる二部分型重合性組成物。

態様 2．第二の部分に、第一及び第二の部分を接触させた際に、有機ホウ素化合物を脱錯化させることができる脱錯化剤を更に含む態様 1 に記載の二部分型組成物。

態様 3．芳香族化合物が 2 個又はそれ以上の、ヒドロキシル、エーテル又は両方の置換基を有し、これらの置換基が互いにオルト又はパラに位置している態様 1 又は 2 に記載の組成物。

態様 4．有機ホウ素化合物が有機ボレート又は有機ホウ素アミン錯体である態様 1～3 のいずれか 1 項に記載の組成物。

態様 5．過酸化物含有化合物が過酸化物及びヒドロペルオキシドの群から選択される態様 1～4 のいずれか 1 項に記載の二部分型組成物。

態様 6．前記促進剤が、1 個又はそれ以上の、ヒドロキシル、エーテル又は両方の置換基を有する芳香族化合物であり、そして二部分型組成物の約 0.1 重量%～約 4 重量%の量で存在し、そして過酸化物が、二部分型組成物の重量基準で、約 0.5 重量%～約 8 重量%の量で存在する態様 1～5 のいずれか 1 項に記載の二部分型組成物。

態様 7．前記促進剤がキノン含有化合物であり、そして樹脂部分の組成物の約 0.1 重

量%～約4.0重量%の量で存在する態様1～5のいずれか1項に記載の二部分型組成物。

態様8．態様1～7のいずれか1項に記載の重合性組成物の成分を、フリーラジカル重合が可能な1種又はそれ以上のモノマーが重合されるような条件下で接触させることを含んでなる方法。

態様9．更に、前記組成物を、高温度において、有機ホウ素アミン錯体が解離するような条件下で加熱する工程を含む、態様8に記載の方法。

態様10．2個又はそれ以上の基体を一緒に接着させる方法であって、

態様1～7のいずれか1項に記載の組成物の成分を、重合が開始するような条件下で、一緒に接触させる工程、

接着組成物を2個又はそれ以上の基体と接触させる工程、

2個又はそれ以上の基体を、接着組成物が2個又はそれ以上の基体（これらは、互いに接触状態にある）の間に位置するように配置する工程及び

接着剤を硬化させ、そして2個又はそれ以上の基体を一緒に接着させる工程を含んでなる方法。

態様11．低表面エネルギーポリマーの表面の変性方法であって、態様1～7のいずれか1項に記載の組成物を、低表面エネルギーポリマーの表面の一部と接触させ、そして有機ホウ素アミン錯体を解離させ、それによってモノマー、オリゴマー、ポリマー又はこれらの混合物の重合を開始させ、そうして形成されたポリマーが、低表面エネルギーポリマーの表面上に存在するようにする変性方法。

態様12．態様1～7のいずれか1項に記載の組成物の成分を接触させる工程、接触させた組成物を、基体の1個又はそれ以上の表面と接触させる工程及び被覆組成物を硬化させる工程を含んでなる基体の被覆方法。

態様13．態様1～7のいずれか1項に記載の組成物を含んでなる被覆組成物。

態様14．基体の間に配置され、そしてそれぞれの基体に接着された、態様1～7のいずれか1項に記載の組成物を有する少なくとも2個の基体を含んでなる積層体。